

＜学校経営方針の重点＞

- 1 学力の向上
- 2 豊かな心の育成
- 3 体力の向上
- 4 特別支援教育の充実

学校評価シート

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	%	前期（6月）			後期（12月）			評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
					保護者	児童	教員	保護者	児童	教員				評価	コメント	
学力の向上	確かな学力の定着	学びに向かう力の育成を通じた学力の定着	□学力の実態を分析し、基礎学力を定着させる授業を検討・実践する。	A	31	48	27	32	39	27	B	87%の児童が定着を感じ、13%の児童が授業の理解不足を実感。	成長を実感できる場面の検討と、必要な児童が支援を受けられるよう推進する。	B	学力向上を推進し、一部の集中力を欠く児童への対応も望みます。個々の理解度や実態をどう把握しているか、具体的な取組内容と合わせて詳しく説明してほしいと考えます。	基礎学力の定着に向け、個別の状況に応じた丁寧な指導に努めます。授業改善と実態把握を推進します。具体的な取組や児童の様子をより分かりやすく、発信して参ります。
				B	65	41	67	62	48	46						
				C	4	9	6	0	13	27						
				D	0	2	0	0	0	0						
				E	0			6								
			□主体的・対話的で深い学びを目指した活動を検討・実践する。	A	22	58	33	22	48	27	B	意見交換の実感は9割。9%は「あまりできない」と回答。	課題の見られる児童の主体的・対話的で深い学びの手立てを充実させる。	A	児童の9割が意見交換できている点は大きな成果です。今後はさらに対話を深めることで、子どもたちの学びへの意欲をより一層高めていく工夫が必要ではないでしょうか。	高い評価を励みに、基礎学力の定着に焦点を当て、対話的な学びにも取り組みます。また、学習意欲を引き出す授業改善を続け、主体的に学ぶ態度の育成に努めて参ります。
				B	67	32	67	60	43	73						
				C	2	9	0	0	9	0						
				D	9	1	0	0	0	0						
				E	0			18								
			□算数を軸にICT機器を活用して個別最適化された活動を実施する。	A	30	60	27	28	67	55	A	児童の実感として、端末活用の定着率93%。未習得は1割未満。	「藤橋小チャレンジ」と「朝学習」の取組を基本に、取組を継続する。	A	ICT活用は時代の流れですね。早期習熟は計算力等の向上に有効なので継続を願います。ただ「藤橋チャレンジ」の具体的な内容をもっと詳しく知りたいと感じています。	ICT活用を継続し、基礎学力の向上に繋がります。ご要望の「藤橋チャレンジ」については、活動の様子や成果を発信し、皆様との情報共有を深めて参ります。
				B	59	24	60	66	26	36						
				C	2	4	7	2	6	0						
				D	9	12	6	0	1	9						
				E	0			6								
豊かな心の育成	人権尊重教育の推進	人権尊重の精神を基盤に、差別や偏見をなくし、温かい人間関係と生活上の基本的なルールを育成	□挨拶と場面に応じた言葉遣いの指導を行う。	A	35	23	60	40	22	82	B	挨拶と丁寧な言葉遣いの意識は70%。不十分な層は13%。	改まった場面での言葉遣いと、親しい間柄での適切な言葉遣いについて指導を継続。	A	挨拶や言葉遣いの指導は成果が出ていますね。6年生が施設で元気に挨拶できたことは素晴らしく、将来に繋がる大切な取組です。ぜひ今後もこの良い指導を継続してください。	評価を励みに、今後も言葉遣いの指導を継続します。様々な実体験を通して、相手を思いやる心と実践力を育みます。地域に愛される児童の育成に向け、取り組んで参ります。
				B	61	35	40	52	48	18						
				C	0	33	0	6	10	0						
				D	0	9	0	0	3	0						
				E	4			2								
			□特別の教科道徳と、特別活動の指導を充実させ、行事等で実践する。	A	20	47	40	18	38	27	B	特別の教科道徳の対話的学び、9割弱が定着。課題層は13%。	学校生活全体での体験を大切に、児童の心を育成していく。	A	道徳で対話に課題がある児童への支援を。人権尊重は一生の宝であり、幼少期からの教育が豊かさを生みます。ボランティア等、学校ならではの学びを継続してほしいと考えます。	話し合い活動と異学年交流活動、道徳の授業、様々な行事、人権尊重の精神と道徳性を養うボランティア等の教育活動を継続します。学校だからこそできる心の育成に尽力いたします。
				B	69	40	60	72	49	64						
				C	11	12	0	2	10	0						
				D	0	1	0	0	3	9						
				E	0			8								
			□各種規定を順守し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。	A	11	49	67	24	49	82	A	いじめ防止の意識、94%に浸透。課題層は6%。	意識を育みつつ、状況把握や感情制御に課題のある児童を適切な支援へとつなげる。	A	迅速なトラブル対応や家庭への即座の連絡に感謝します。療育院での活動も好評です。今後もいじめ防止意識の更なる向上と、課題を抱える保護者への対応を望みます。	日常的な継続指導に加え、年間4回のいじめ防止強化月間を通して、いじめの早期発見、早期解決に努めます。迅速な初期対応を継続し、未然防止に向けた指導を継続します。
				B	74	41	33	62	45	18						
				C	4	8	0	6	5	0						
				D	11	2	0	0	1	0						
				E	0			8								
体力の向上	健やかな体の育成	自己理解を深め、自主的・主体的な心身の健康づくりを促進	□運動の楽しさを味わわせる活動により、意欲の向上を図る。	A	33	63	40	38	58	27	B	8割強が運動充足、14%に課題。	縄跳び旬間や運動発表会を継続し、運動の楽しさ・爽快感を味わう経験を充実させる。	A	クラスの一体感や、やる気を引き出す指導を評価します。冬の運動発表会も良い取組ですね。今後は個々の体力差に配慮し、運動が苦手な子ども意欲をもてる工夫を望みます。	集団の絆を糧に、個々の特性に応じたきめ細かな運動指導を推進します。体力差を考慮した目標設定を行い、全ての児童が運動を楽しみと感じる環境を整えます。
				B	65	26	60	60	28	73						
				C	2	8	0	2	11	0						
				D	0	3	0	0	3	0						
				E	0			0								
			□実態分析により、体力と運動能力の向上を図る。	A						30	A	体力向上の取組実感は、9割。課題意を感じている職員は10%。	男女共、体力テスト体力合計点が全国・都を上回っている。取組を継続する。	A	体力テストが全国や都の平均を上回る好成績で素晴らしいです。体育学習発表会でも運動能力の向上を実感しました。日常から体を動かす習慣が成果に結びついていますね。	高い評価をいただき、教職員一同励みになります。今後も日常的な運動機会を工夫して創出し、児童が楽しみながら自発的に体力を高めていける環境づくりを推進して参ります。
				B						60						
				C						10						
				D						0						
				E												
			□危険を予測し、対応する方法など、成長段階に応じた安全教育を行う。	A	26	75	53	28	61	27	B	児童の実感として安全意識の定着率は94%。課題層は6%。	避難訓練・安全指導を通じ、児童の成長段階に応じた具体的な指導を継続実施する。	A	児童自身の安全意識と、社会から見た危険性にはまだ差があります。個々に応じた丁寧な指導はされていますが、成長段階に合わせ、より高い安全意識を徹底させてください。	登下校や校内での安全確保に向け、発達段階に応じた継続的な指導を強化します。家庭とも連携し、児童自らが危険を察知し回避できる力を一層高めて参ります。
				B	70	23	47	70	33	73						
				C	0	1	0	0	5	0						
				D	0	1	0	0	1	0						
				E	4			4								
特別支援教育の充実	個に応じた支援の推進	組織的な特別支援教育の理解普及と推進	□特別支援教育コーディネーターを中心に、情報共有を行う。	A	28	31	67	20	18	46	B	立場や視野の違いが、三者の大きな意識差を生んでいる。	保護者と児童、各々の立場に応じた理解を深める働きかけを、着実に遂行していく。	B	保護者、児童、学校の意識差の改善は難しい課題です。相互理解を深める努力をお願いします。関係機関との連携や対話、知恵も借りて進めてほしいと考えます。	意識の差を埋めるため、情報共有に努めます。コーディネーターを中心に校内での情報共有を行い、家庭との連携を図ります。児童が適切な支援を受けられるよう、取組を継続します。
				B	57	19	27	72	22	54						
				C	2	21	6	2	20	0						
				D	0	29	0	0	39	0						
				E	13			6								
			□特別支援教室と関係諸機関との連携を図る。	A						60	A	全職員が関係機関と連携を実感。	児童への支援を具現化すべく、特別支援教室や関係機関と連携を継続・推進する。	A	学校と関係機関が手を取り合い、連携を深めようとする姿勢に期待しています。子どもたちの成長を支えるための大切な取組ですので、ぜひ今後も継続していきましょう。	温かい励ましに感謝いたします。今後も関係機関とのネットワークを強固にし、専門的な知見や地域の力を教育活動に活かせるよう、組織的な連携体制の充実に努めて参ります。
				B						40						
				C						0						
				D						0						
				E												
			□特別支援教育について、理解の普及に努める。	A						40	B	全職員が特別支援教育の理解普及に向けた取り組みを実感。	児童が必要な支援を得るため特別支援教育の理解普及を続け、偏見解消を推進する。	A	特別支援教育に対する偏見を解消していくことは、教育において非常に大切な視点です。児童が必要な支援を受けられるよう、今後も取り組んでほしいと思います。	多様性を認め合う心の育成は本校の使命です。理解教育や啓発活動を通じ、児童・保護者・地域の皆様と共に、特別支援への正しい理解と偏見のない土壌づくりを推進します。
				B						60						
				C						0						
				D						0						
				E												
その他の重点	家庭や地域との連携	学校と共通の目標の実現に向けた家庭と地域との連携推進	□学校便りやHP、一斉連絡メールで、保護者による教育活動の理解普及に努める。	A	35	51	53	48	39	36	B	全保護者が、学校の分かりやすい情報発信を実感。	分かりやすく継続発信中。ただ、オンライン化で児童に見えにくい面も残る。	A	「スクリレ」の活用で情報が確実に届くのは良いですね。希薄化する地域連携も重要です。自治会としても知恵を出しますので、取り組みを継続してほしいと思います。	デジタルツールの利点を活かし、確実な情報発信に努めます。また、自治会からの心強いお申し出を糧に、地域と学校が一体となって児童を見守る連携体制を再構築して参ります。
				B	59	30	47	52	34	64						
				C	6	13	0	0	21	0						
				D	0	6	0	0	6	0						
				E	0			2								
			□地域ボランティアと教育資源の活用を図る。	A	20	26	47	30	37	18	B	児童の83%が地域学習を実感する一方、17%には課題が残る。	ボランティア連携の栽培や地域・青梅学を継続し、無理のない範囲で充実させる。	A	療育院での活動は、人のために動く喜びや優しさを学ぶ素晴らしい機会です。教職員の誠実な職務遂行も評価します。今後も地域との交流内容を精査しつつ、継続を願います。	活動への高評価と教職員への励ましに感謝いたします。今後も安全と教育的効果を十分に考慮し、地域・施設と密に連携しながら、豊かな心を育む体験活動を推進して参ります。
				B	76	36	27	60	46	73						
				C	4	22	26	4	13	9						
				D	0	16	0	0	4	0						
				E	0			6								
			□「10分×学年+α」の家庭学習を推進する。	A	18	53	20	28	45	18	B	8割強が自発的な家庭学習を継続。未達成の児童は15%となった。	学習習慣定着を図りつつ、課題のある児童は実態に応じた無理のない内容で進める。	B	学力の個人差が気になります。家庭環境は様々ですので、一律の押し付けにならない配慮が必要です。自発的な学習は子供には難しいため、丁寧な動機付けを期待しています。	個々の習熟度に応じた指導を徹底し、学力の定着を図ります。家庭学習についても各家庭の状況に配慮しつつ、学校で学習の仕方を指導し、自ら学ぶ意欲を育て参ります。
				B	52	33	53	62	40	55						
				C	24	11	20	4	13	18						
				D	4	3	7	0	2	9						
				E	2			8								